

# 大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 29 年 (2017)  
皇紀 2677 年

平成 29 年 新春号 【第 107 号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

## 主な目次

年頭所感	2 頁
新春初詣	3 頁
早春の行事	4 頁
奉悼 三笠宮崇仁親王殿下薨去・杜の話題	6 頁
第 3 回フォトコンテスト入選作品発表	9 頁
初宮詣芳名・どんぐり通信	10・11 頁
正月社頭風景	12 頁



新春を寿ぐ神能「翁」

観世流能楽師 人間国宝 野村四郎師

平成二十七年丁酉歳の新春に当たり  
謹んでご皇室を中心とする貴家の隆昌と  
氏子・崇敬者の皆様のご清福を熟禱申し上げます

空司 録日 紀彦

今年は十二支の酉年で、トリ・鳥・鶏に当てられています。元来「酒壺」のことで、五穀の成育する一年間を12の季節に分け収穫した新米を醸して新酒をつくる月、醸成月から十番目の10月を「かんなつき」（神無月）と表していました。

それが後に、暦として普及しますと十二支に動物が当てられるようになり、西にはトリ（鳥・鶏）が当てられました。又、「トリ」といえば「ニワトリ」を指す様に私共の生活の中に溶け込み、身近でもあります。ニワトリは「庭の鳥」という意味の「庭つ鳥」がルーツといわれています。又、「鶏」の枕詞として「庭つ鳥」が用いられる様にもなりました。

我が国では、古来よりニワトリは暁を告げ、日の出を知らせるトリとして神聖視されて来ました。

神典「古事記」の、有名な「天の岩屋戸開き」の神話があります。天の岩屋戸に隠れた天照大御神をなんとか外へお出まし願いたいと八百万の神々が集まり会議が開かれ、議長と思兼神が「常夜の長鳴鳥」を鳴かせようと考へ、多くの神々のお働きと協力で天照大御神を岩屋戸からお戻しすることが出来たという物語であります。

今までの闇夜のような暗い世界から一瞬にして照り輝き明るくなったと伝えており、現在の祭祀の原点にもなっているところでもあります。そのとき、長鳴鳥（ニワトリ）の存在があったのです。

言うまでもなく、伊勢神宮の式年遷宮では鶏鳴三声（内宮ではカケコー、外宮はカケロー）のあと、勅使の「出御」の合図で御正殿の御扉が開かれ「遷御の儀」が始まります。そんな大切な役目が「ニワトリ」にあるのです。



鶏（ニワトリ）は夜が明けられることを私共に知らせてくれます。日が昇り朝が来て新しい日が始まります。

さて、我が国を取り巻く環境も依然として内憂外患悲喜交々の間に越年しております。

一昨年の年末「美しい日本の憲法をつくる国民の会」主催の大会が開催されました。日本の歴史と国柄に基づく憲法改正の早期実現の国民世論の醸成などの運動方針が発表され、盛り上がりを見せられて残念に思っております。

昨年の米国の大統領選挙に於ける共和党候補のドナルド・トランプ氏と民主党のオバマ大統領の政権を引き継ぐヒラリー・クリントン氏の選挙運動を見ても、お互いに罵りあう姿は世界の警察でなくなっているとは言え、「米国の品格」はどうなっているのかと疑わざるを得ませんでした。そうして予想に反して米国民はトランプ氏を選びました。

戦後七十年間、我が国は同盟国米国の抑止力に守られていた為、驚異的な経済復興を成し遂げ、今日があることも決して忘れてはならないと思います。

護憲派の言う様な平和憲法によって日本の平和が守られてきたのではないということを知るべきだと思います。中国は、南シナ海を自国領として島や岩礁を埋め立てています。そうしてその触手を東シナ海に延ばし、我が国の固有領土の尖閣諸島を侵略しようとしています。

この時に当たり我が国は「自分たちの国は自分で守る」という、謂わば当たり前の気概を持って、自衛隊も国軍として、世界の平和に国際貢献をする時期が来たように思います。又、軍隊なき外交もできません。

かつて、藤原正彦氏の「国家の品格」について講演を伺ったことが思い出されます。「国家の品格、それ自体が防衛力である」ということであります。

『日本が開国した明治維新のとき、英国や米国は日本を植民地化しようと思えば出来たはず。』

しかし、英国人たちは江戸の町に来て町人たちがあちこちで本を立ち読みしている姿を目の当たりにして「とてもこの国は植民地化出来ない」と諦めてしまった。中国は、全体を植民地化するには大きすぎたが、阿片が拵がった。西欧列強は、東南アジアの利権を分け合い、タイはビルマ（ミャンマー）を有する英国とインドシナ（ベトナム・ラオス・カンボジア）を有する仏国の間の緩衝地として植民地にならなかつた。しかし、他のアジア諸

国は全て植民地になった。

日本は、品格のある国家であったが故に植民地にならずに済んだ。この様に江戸時代に寺子屋が普及し国民の文化度が高かつたこと、国家に品格があるということは防衛力にもなることである。

更に、『日本人が持っている「国柄」は素晴らしいもので世界に冠たる国柄であった。日本が世界のどの国とも本質的に違う文化文明を作り上げていた。先人の作り上げた日本文明の非常に優れた独自性をどのようにして守り続けるのか、子孫である我々の義務である』と述べられておりました。

日露戦争終結の時の水師營の会見でも、日本の武士道とロシアの騎士道を見ることが出来ます。又、当時世界最強と言われたロシアのバルチック艦隊を我が日本の連合艦隊が勝利した日本海戦後の美談もありました。

そうして、七十二年前の敗戦により終結した大東亜戦争は東南アジアの解放の為の戦いであり、米国により仕掛けられた戦争でした。我が国にとつては自存自衛の為の戦いであり、戦後言われているような太平洋戦争と名前まで変えられた侵略戦争ではなかつた事が最近になって判明してきております。

事実として日本の敗戦後、東亜の国々が次々と植民地から目覚め、独立運動を起こして独立し、日本の解放作戦に感謝しているのです。

米国の政治体制がどう変わるうとも、同盟国として安全保障体制は変わるものではありません。

私共は正しい歴史観を身に付け、真実を追求して歴史認識を新たにすべきであります。祖国日本に誇りと自信を持って、特に自分の国は自分等で守るという確たる気概を持ち、しっかりと地に足をつけて、国際的に貢献していく時期が到来していると思っております。

本年の酉年の新春を迎えるに当たり、午前零時の初太鼓のあとご神前では、人間国宝になられた観世流能楽のシテ役野村四郎師の神能「翁」の舞により言寿が舞われます。このご神威輝くご神前にお参り頂き、大宮八幡宮の神々のご神縁と絆をより深く結ばれ、豊稔昇る初日（朝日）を浴びられ、更に更に元氣よく幸せ多き年と成りますよう祈念致し年頭の挨拶と致します。



# 新春初詣

明けましておめでとうございます

平成二十九年丁酉正月

「目録世流能楽師野村四郎奉納 神能「翁」  
二音 小笠原流除魔神事 養目の儀・大的式

平成29年丁酉の訪れを告げる宮司の初太鼓が元旦の午前0時境内に響き渡ります。ご社殿正面の神門が開かれると初詣参拝者の長い列が陸続と続きます。拜殿では、先ず、観世流能楽師の野村四郎師（人間国宝）による神能「翁」が奉納され、次いで新春厄除開運初大祈願祭（一番祈祷）が宮司奉仕により齋行、そのあと新春初祈願祭が順次奉仕されます。明けて午前8時より歳旦祭が斎行され、皇室国家の安泰、世界平和、氏子の安寧が祈念されます。2日午前には、小笠原流新春除魔神事、養目の儀・大的式が宗家小笠原清忠氏率いる小笠原流一門によって奉仕され、弓威により一年の邪気を祓います。3日は皇位の大元を寿ぐ、元始祭が斎行され大宮八幡宮の一年が始まります。

## 平成二十九年 新春の祭典と主な行事

- 1月1日 神能「翁」  
厄除開運初大祈願祭（一番祈祷）  
歳旦祭
- 1月2日 小笠原流養目の儀・大的式
- 1月3日 元始祭
- 1月7日 昭和天皇祭遙拝
- 1月15日 古神札焼納祭（とんど焼き）
- 1月25日 初天神祭（大宮天満宮）
- 1月26日 文化財防火デー 消防演習
- 2月3日 節分祭
- 2月11日 紀元祭
- 2月12日 初午祭（大宮稲荷神社）
- 3月春分 春季皇霊祭遙拝
- 3月下旬、4月上旬 桜まつり
- 4月3日 神武天皇祭遙拝・本宮遙拝
- 4月29日 昭和祭・春の弓道奉納射会
- 5月3日～5月5日 大宮八幡宮わかば祭り（春の大祭）
- 5月13日 裏千家献茶式
- 5月16日 御嶽権名神社例祭・御嶽権名社二
- 毎月1日 朔日祭（どなたでもご自由に参列出来ます。）
- 毎月15日 月次祭
- 毎月25日 大宮天神月次祭

毎月・お朔日参りを致しましょう

## 謹賀 平成二十九年元旦

大宮八幡宮

代表役員 宮司 鎌田 紀彦

責任役員

五本木 徳治  
藤本 誠友  
内山 宏章  
瀬沼 恭章  
玉村 憲章

議長

青木 龍彦  
吉岡 俊郎  
葉梨 俊郎

監査

笠原 武紀  
松野 修三

総代

大宮地区  
五本木 徳治  
荒木 昭一  
青木 龍彦  
根岸 賢治  
末柄 哲明  
根岸 政明

相談役

高橋 住雄  
田千 城夫

大宮八幡宮敬神婦人会

会長 鎌田 民枝  
大宮八幡宮氏子青年会  
会長 井川 邦夫

兼務神社総代会長

堀ノ内熊野神社  
渋谷 達雄

方南地区

岩田 文雄  
岩崎 太良  
齊藤 美夫  
鈴木 修三  
細野 三章

和田東地区

梅田 信彦  
横尾 晃彦  
佐野 守一  
岩船 紀男  
笠原 恭一

和田西地区

飯高 朝資  
浅川 宏友  
藤枝 博友  
梅田 純一郎  
森川 俊郎

松ノ木地区

川上 正一  
太田 忠男  
松沼 武治  
瀬沼 宏章  
瀬沼 敏夫  
小井川 宗郎

方南地区

三枝 栄治  
丸山 武彦  
丸山 光男  
内山 誠一  
相川 雄一

方南北地区

岩田 文雄  
岩崎 太良  
齊藤 美夫  
鈴木 修三  
細野 三章

尾崎熊野神社

安藤 雄次  
尾崎 雄次

成宗白山神社

岩田 和保  
岩崎 和保

尾崎熊野神社

安藤 雄次  
尾崎 雄次

岩田 文雄

岩崎 太良  
齊藤 美夫  
鈴木 修三  
細野 三章

# 大宮八幡宮 早春の行事

## 新春恒例の除魔神事、 暮目の儀・大的式

暮目の儀・大的式は初春の年頭にあたり、天下泰平・国家安泰を祈念する恒例の除魔神事で、1月2日午前10時より小笠原流ご宗家一門の方々により奉仕されます。いずれも当宮の新春の恒例の弓始めの神事で暮目とは、矢先につけた暮蛙に似た鏢の形をいい、鋭い風切り音により魔障を退散させます。大的式は、千五百年前、清寧天皇の御世に射を行った日本書紀の記述に基づく、公家・武家に伝わる重儀です。



## 成人奉告祭のご案内

新年を迎え新たに成人したことをご神前に奉告する**成人奉告祭**を随時ご奉仕しています。ご祈願の新人の皆様には宮司揮毫の干支絵馬を、特別授与致しております。  
新成人の皆様のお参りをお待ちしております。



## とんど焼き神事

小正月の1月15日、月次祭に併せてまず古**神矢・古神札焼納奉告祭**が行われ、続いて午前11時半より境内齋場にて古**神矢・古神札焼納祭**が斎行されます。古く宮中ではこの日に清涼殿東庭で吉書を焼く左義長の儀式が行われてきました。当宮では、参拝者の皆様よりお納めいただいたご神札、お守り、守護矢、注連縄等が齋場に積み上げられ、**火鑽神事**によって熾された浄火が点火されます。宮司以下神職等が大祓詞を奏上、燃えさかるお焚き上げの忌火の前に、参列の皆様を始め氏子崇敬者各位のこの二年の除災招福を祈ります。また、当宮敬神婦人会(りんどう会)により「厄除ぜんざい」が振る舞われます。



御神札等をお納め頂く際に全て点検・選別させて頂き、**神社関係以外のもの・燃えないもの・有毒物質の発生のおそれのあるもの(プラスチック製品等)・包装紙は、その場で持ち帰り頂いております。**  
◆**御守り・古神矢・古神札類(他の神社のもの)**及び正月飾りのみお預かり致します。  
◆人形類は、別途ご社殿におきまして**人形感謝祭**を斎行してからお納め頂きますので、直接祈願受付所へお申し込み下さい。(※但し、ぬいぐるみはお預かり出来ません)



## 新春厄除開運初大祈願祭(一番祈禱)

元旦の午前零時、神能「翁」の奉納に続き、その年最初の祈願祭である「**新春厄除開運初大祈願祭(一番祈禱)**」が宮司奉仕により執り行われます。

この祈願祭にご参列希望の方は、新春初大祈願祭の予約申込みを**12月20日までに事前に済ませ**の上、大晦日12月31日午後11時20分から40分まで神門横祈願受付で新春初大祈願祭参列受付票をご提示下さい。  
※先着50組(定員となり次第締切)  
※大晦日当日の受付は致しません



## 新春初祈願 企業団体の祈願祭も

新春に当たり氏子崇敬者の皆様の新しい年のご繁栄をお祈りする**新春初祈願祭**を連日ご奉仕させて頂きます。  
又、企業・団体様の仕事を始めに合わせ、更なるご発展を祈る祈願祭もご奉仕しております。ご祈願の際は代表様・従業員の皆様もお揃いでご祈願頂きます。この新春にお揃いでご祈願を受けられまして、清々しい気持ちで一年の仕事始めとされては如何でしょうか。

新春祈願・企業団体祈願をご希望の方は、社頭の申込書に必要事項をご記入の上、ご予約をお願い致します。  
※御神札には、祈願名と代表者名を浄書させて頂きます。

## 初天神祭

1月25日午前10時より**初天神祭**を斎行します。当宮境内社の大宮天満宮の学問の神様菅原道真公に学業成就・芸芸上達を祈願します。又、社頭祈願祭も併せて行い「梅ヶ香御守」が社頭にて授与されます。



## 文化財防火デー 消防演習

文化財防火デーの1月26日は、当宮でも杉並消防署の指導により消防訓練を行い、当宮自衛消防隊・杉並消防団第二分団・ボランティア等の協力のもと、避難誘導から通報連絡、初期消火のあと、社殿への**斉放水**が行われます。



## 御鎮座九百五十年式年奉賛者芳名簿(その13)

平成28年8月1日～11月30日  
(※一万元以上のみ掲出、敬称略、順不同)

### 方南地区

一金貳万円

蛭間よね子

(計 伍萬円)

### 松ノ木地区

一金八萬八千円

西田哲平

### 社務所扱

一金壹百萬円

熊谷日出子

一金伍万円

株式会社千斗

代表取締役 吉田斉史

阿多壽次

勝俣浩

一金壹万円

奥村泰子

(計 貳萬円)

山本毅

### 節分祭(鳴弦の儀)

立春の前日の節分は四季の変わり目であり、悪疫邪気を追い払う追儺行事が行われます。この故事は中国より渡来したもので、古くは文武天皇の御宇にその記述が見られます。当宮では宮中の例に習い桃弓・葦矢で「天・地・人」に潜む魔を射る卯杖神事を行い、社殿前にて、古式に則り宮司奉仕により鳴弦の儀が厳粛に斎行されます。又、当宮幼稚園児が鬼に扮して邪気を祓う豆撒き神事も取り行われます。



### 紀元祭並榎原神宮遙拝

今年、皇紀二六七七年の2月11日建国記念の日(紀元節)には初代神武天皇の御即位を寿ぎ、皇室国家の繁栄・国運の隆昌と世界の平和をご祈念申し上げる紀元祭を斎行し、清涼殿にて榎原神宮を遙拝します。



### 大宮稲荷神社初午祭

2月12日午後1時より、大宮稲荷神社にて初午祭が斎行されます。京都伏見の峰に稲荷大神が降りられたのが和銅4年の初午の日であることから、全国の稲荷神社では初午祭が斎行されます。百数十本の鮮やかな朱色の初午幟の建ち並ぶ社前には、幟奉納者・崇敬者等が参列のもと祭典が斎行されます。また、兼務社の堀ノ内熊野神社・成宗白山神社・尾崎熊野神社、境外社の谷中稲荷神社でも初午祭が斎行されます。



### 桜まつり

3月下旬から4月上旬には、大宮八幡宮を中心とする和田堀公園(旧境内)一帯は善福寺川沿いの数千本の桜が一斉に咲き誇ります。桜の開花に合わせ合わせて「大宮八幡桜まつり」を開催します。期間中の土曜・日曜に限り、午後8時まで開門し、夜間参拝と桜満開への通り抜けができます。また期間中の土曜午後6時より雅楽演奏「夜桜の神遊び(雅楽と神楽の夕べ)」を開催します。



### 勧学祭

小さい背中に大きなランドセルを背負って歩く新一年生の姿は可愛らしく頼もしいものです。これから毎日背負うランドセルをお祓いして、子育て八幡様のご加護を戴き6年間の学校生活の充実と交通安全を祈願いたします。



### 新春厄除祈願祭のご案内

厄年は、古来人生の節目として特に気をつけなければならぬとされている年回りです。厄除けのお祓いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

### 平成二十九年厄年表(数え年)

男	前 厄	大 厄	後 厄
	平成 6 年生 (24 歳)	平成 5 年生 (25 歳)	平成 4 年生 (26 歳)
女	前 厄	大 厄	後 厄
	昭和 52 年生 (41 歳)	昭和 51 年生 (42 歳)	昭和 50 年生 (43 歳)
男	前 厄	大 厄	後 厄
	昭和 33 年生 (60 歳)	昭和 32 年生 (61 歳)	昭和 31 年生 (62 歳)
女	前 厄	大 厄	後 厄
	平成 12 年生 (18 歳)	平成 11 年生 (19 歳)	平成 10 年生 (20 歳)
男	前 厄	大 厄	後 厄
	昭和 61 年生 (32 歳)	昭和 60 年生 (33 歳)	昭和 59 年生 (34 歳)
女	前 厄	大 厄	後 厄
	昭和 57 年生 (36 歳)	昭和 56 年生 (37 歳)	昭和 55 年生 (38 歳)
男	前 厄	大 厄	後 厄
	昭和 33 年生 (60 歳)	昭和 32 年生 (61 歳)	昭和 31 年生 (62 歳)

※大厄の前年は前厄、後年は後厄にあたります。厄年に限らず、除災招福の厄除祈願を受けることが出来ます。

### 毎月お朔日参りには 月参り御幣守護を!!

当宮では古くより朔日(二日)、十五日に月参りをされる参拝者の方々が多く、こうした方々に年間を通じて八幡大神様のご神威をお受け頂こうと、毎月の朔旦祭に併せてお朔日参り「月参り御幣振り神事」のご祈願を奉仕しております。月毎にお申し込みの場合は初穂料三〇〇〇円、年間一括でお申し込みの場合は初穂料三〇、〇〇〇円にて斎行させていただきます。



### 三笠宮崇仁親王殿下の薨去を悼み奉る

#### 当宮に特別の思し召しも

三笠宮崇仁親王殿下には去る10月27日朝、薨去されました。御年百歳であられました。平成20年10月の御参拝など殿下の当宮へお寄せ頂いた格別の御心に思いを致すとき、誠に悲しみの極みであります。

29日には宮司夫妻が宮邸に参邸し申問記帳を致しました。11月2、3日の御通夜、4日の斂葬の儀、葬場の儀など一連の皇室喪儀諸式が執り行われましたが、当宮よりは鎌田宮司が縁故者をもってご案内を頂き御通夜、葬場の儀に参列させて頂きました。

御通夜は11月2日夜、三笠宮邸に参邸、午後8時よりお側近くに祇候致しました。

葬場の儀は11月4日に豊島岡墓地で斎行され、午前9時、三笠宮邸を出発された霊車の鹵簿列は豊島岡に御到着。総門よりは喪主の妃殿下、喪儀委員長、司祭長らの徒歩列が霊車に従い葬場に進まれました。

午前10時、葬場の儀が奉仕され奠饌幣。饌及び幣物が献



じられ、東園司祭長が祭詞を奏上。勅使、皇后宮使、喪主、皇太子同妃両殿下始め皇族方が御拝礼。次いで元皇族、親族、外交使節団代表などの参列諸員拝礼が行われ、宮司も所定の位置まで進み拝礼させて頂きました。葬場の儀のあと午後には墓所の儀が行われました。

三笠宮崇仁親王殿下には戦前、土官学校時代に行軍で度々当宮におでまし頂いたとの事。宮司着任後の平成13年秋に一度お参りいただきましたが、平成20年10月31日、両殿下お揃いで当宮に御参拝に成られました。御著書『わが歴史研究の七十年』の御出版のお祝いの会が古代オリエント研究のお仲間有志の方々に催され、宮司夫妻も陪席いたしました。このとき記念植樹もして頂きました。



## 杜の話題

### 秋の大宮八幡祭り斎行

恒例の大宮八幡祭り（秋の大祭）は、秋の長雨の合間を縫うように、まず9月15日には例祭を神社本庁より献幣使（小野東京都市社庁長）参向のもと斎行し秋の実りの感謝と皇室国家の安泰と氏子崇敬者各位の隆昌発展を祈念いたしました。次いで17日夕刻には宵宮祭を斎行。翌18日は氏子奉幣祭が執り行われ、大宮・方南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の6地区の氏子より寄せられたご浄財が氏子幣として大前に奉獻されました。また、氏子各地区の神輿の社参が午前中より次々に行われ、午後6時より9基の神輿が順々に表参道を進んで、神門内大前に練り込み、第31回神輿合同宮入りは最高潮に達しました。このほか18日午後には、小笠原流宗家による弓の神事三三九手挟式を斎行。期間中は大宮幼稚園児民謡踊り・方南エイサー踊り・杉並太鼓など様々な神賑行事が奉納されました。さらに重陽の節句菊被締飾りが9月9日より19日まで清涼殿ロビーで再現されました。



### 伊勢で全国神社スカウト大会に参加



当宮のボーイスカウト杉並13団（40名）とガールスカウト東京62団（19名）は、8月6、9日、第12回全国神社スカウト大会に参加しました。全国の神社スカウトと、台湾のスカウトが合わせて1530名が参加。三重県営総合競技場周辺で野営を行いました。『神様に笑顔であいさつ 和の心』をテーマにこれまでに取得した能力や技能を発揮し、友情を深め「スカウト」としての誇りを培いました。伊勢神宮合同参拝行進や「みそぎ行事」にも参加しました。8日午後GS、BSそれぞれの野営地を宮司が訪問しました。



### 第16回十五夜の神遊び

第16回十五夜の神遊びが9月25日の夕刻、開催されました。神前の約1300基の竹灯にご参列の皆様の手により火が入れられ、「月の音舞台」ではおなじみの「き乃はち」氏を迎えての尺八の奉納演奏。虫の音もすだく境内に尺八の音色と相俟って、鎮守の杜はしばし幽玄の世界に包まれました。

# りんどう会だより

## 大宮八幡宮

### 敬神婦人会りんどう会 創立10周年記念大会



この度大宮八幡宮敬神婦人会りんどう会が創立10周年となり、10月2日に記念式典が盛大に行われました。まず午前10時より清涼殿2階蓬莱の間にて記念式典を開催、鎌田民枝会長挨拶、宮司挨拶、東京都神社庁小野庁長、東京都敬神婦人連合会荒井会長、石原伸晃衆議院議員代理の里紗夫人より御祝辞をいただきました。次いで社殿にて開催奉告祭、記念撮影。正午より懇親会となりました。まず五本木せつ子役員等による祝儀舞の清興に始まり、鎌田会長の開宴の辞、高橋芳子顧問による乾杯の発声にて、終始和やかに祝宴が進行しました。氏子青年会役員による木遣りを手締め、五本木秀子副会長の閉宴の辞にてお開きとなりました。会場には会員有志制作のつるしびなが飾られ、会場入口には10年の歩みの写真が展示されました。



この度大宮八幡宮敬神婦人会りんどう会が創立10周年となり、10月2日に記念式典が盛大に行われました。まず午前10時より清涼殿2階蓬莱の間にて記念式典を開催、鎌田民枝会長挨拶、宮司挨拶、東京都神社庁小野庁長、東京都敬神婦人連合会荒井会長、石原伸晃衆議院議員代理の里紗夫人より御祝辞をいただきました。次いで社殿にて開催奉告祭、記念撮影。正午より懇親会となりました。まず五本木せつ子役員等による祝儀舞の清興に始まり、鎌田会長の開宴の辞、高橋芳子顧問による乾杯の発声にて、終始和やかに祝宴が進行しました。氏子青年会役員による木遣りを手締め、五本木秀子副会長の閉宴の辞にてお開きとなりました。会場には会員有志制作のつるしびなが飾られ、会場入口には10年の歩みの写真が展示されました。

## 第52回全国神社総代会大会

9月27日、第52回全国神社総代会大会が秋田県民会館で開催されました。全国から約500人が参集。「保呂羽山霜月神楽」やプロ野球解説者山田久志氏の記念公演の後、式典となりました。式典では当宮五本木徳治責任役員が表彰されました。

## 全国八幡宮連合研修会

10月11・12日、全国八幡宮連合第37回研修会が福島県いわき市で開催され、鎌田宮司が出席しました。いわきワシントンホテル椿山荘を会場に15時間開会、来賓祝辞等の後、「復興に向けて」の講演、記念撮影、懇親会が行われました。翌日には飯野八幡宮を正式参拝し、浪江町など各所の視察、東京電力福島第一原発を遠く車窓より視察しました。いわき市観光物産センターにて昼食の後、解散となり帰途につきました。

## 東京明社協議会の会長会

明るい社会づくり運動を進める東京23区の協議会「東京明社協議会」の第6回会長会が去る11月5日に当宮で開催されました。会長会には各区の明社の会長様等73名が出席。社殿前での集合記念写真撮影のあと社殿に昇殿、開催奉告参拝。次いで宮司（杉並明社副会長）が参拝御礼の

挨拶と当宮由緒を説明。その後会場の清涼殿にて会長会を開催しました。

まず東日本・熊本震災、他災害犠牲者慰霊並びに平和祈願の黙祷を全員で行ったあと、西原東京明社協議会会長（墨田）が挨拶をしました。

又、宇田川杉並明社会長の歓迎のことば、活動報告に続く来賓挨拶では小池百合子東京都知事からのメッセージが披露されました。懇親会に移り、各区よりの各々活動報告もあり和やかなひとときをお過ごし頂きました。会長会は平成26年は湯島天満宮、平成27年は柴又帝釈天題経寺で開かれています。



## 座談会

### 「神前結婚式の意味と意義」

雑誌「日本の結婚式」（株）グッドニュース（通信社）12月19日発売号のメイン企画「神社神職から見た、今こそ伝えたい神前結婚式の意味と意義とは」（仮題）の座談会インタビューが去る11月4日午後、当宮で開催されました。



この座談会は神社結婚式振興会と神社挙式研究会が雑誌「日本の結婚式」との

## 氏子青年会だより

### 表参道注連縄張り

9月10日、秋の大祭を控え早朝より注連縄張りが行われました。表参道両側、方南通りの神輿合同宮入の渡御道を飾りつけて秋祭りの雰囲気を高めました。

### 門松・松飾りづくり

年末恒例の門松づくりが12月24日に行われました。立派な門松が社頭に飾り付けられ新年を迎える準備が整いました。新春元日には神門前にて振舞い酒と八幡そばの模擬店を出店します。



タイアップ企画として和婚、とくに神社挙式についてをテーマに開いたもの。座談会は同誌永領紀子編集長の進行で、神社結婚式振興会より顧問の当宮宮司、代表発起人の新潟縣護國神社齋藤伸雄宮司、神社挙式研究会代表の馬橋稲荷神社本橋宣彦禰宜、同事務局長の居木神社森田義巳宮司の四氏が参加。結婚式はお二人の心と心、ご家族同士の心と心、そして「両親」から「自分たち」へ、「自分たち」より未来の「子どもたち」へとつなぐ、「心の継承」の儀礼行事である。など神社結婚式の意義が話されました。

### 神宮大麻頒布式並びに 氏神神社神符等奉戴式

11月9日、平成29年の初春を迎えるにあたり、氏子崇敬者・立正佼成会会員の方々にお頒ちする神宮大麻頒布式並びに氏神神社神符等奉戴式が斎行されました。五本木責任役員・総代及び兼務神社役員・立正佼成会神札頒布責任者の小松延江様等のご参列のもと、ご神前に於いて神宮大麻や各氏神大麻、大宮三宝荒神などの神札類の頒



布始めを大神様に奉告後、各代表様方に授与されました。また、12月中旬には神職が各ご家庭にお伺いして神宮大麻、氏神様、三宝荒神様の御神札をお頒ちしております。ご希望の方は、当宮社務所、もしくはお近くの当宮責任役員・総代にお尋ね下さい。各ご家庭や会社の事務所の神棚に新しいお神札をお祀りして清々しく新年を迎えましょう。



### 第38回杉並大宮菊花展

10月27日より11月23日まで秋の恒例行事の第38回杉並大宮菊花展が開催されました。「753」文字菊の前では例年の如く七五三詣りの家族連れが記念撮影をする姿が見受けられました。11月7日には杉並大宮菊の会(会長五本木徳治役員)主催のもと審査会が行われ、宮司賞以下選定。12月12日には、第38回杉並大宮菊花展表彰式が執り行われました。



文字菊等よせ鉢コーナー

### 菊花展受賞者

- |           |                 |
|-----------|-----------------|
| 宮司賞       | 倉本栄子(精興右近)      |
| 杉並区長賞     | 五本木徳治(彩胡の朝)     |
| 会長賞       | 倉本晴雄(国華越山)      |
| 責任役員賞     | 榎田晃一(国華金山)      |
| 京王電鉄賞     | 青柳和昌(砧の舞)       |
| サミット賞     | 本橋利夫(新花銘)       |
| サミット賞     | 中村幸之輔(瀬戸ノ鷹)     |
| 審査委員長賞    | 青木弘次(国華発祥)      |
| 藤枝賞       | 松尾和雄(国華越山)      |
| 末柄賞       | 佐久間亨(国華正倉)      |
| 八幡前通り商業会賞 | 五本木秀子(彩胡の朝)     |
| 金賞        | 堀井祺三(国華越山)      |
| 金賞        | 山田恭市(国華莊厳)      |
| 金賞        | 岩本芳子(白雪姫)       |
| 金賞        | 三上忠彦(東海錦秋)      |
| 金賞        | 加藤英明(国華金山)      |
| 金賞        | 庄司衛(国華桜島)       |
| 銀賞        | 受賞者3名、新入賞 受賞者1名 |

### 秋の実りに感謝 新嘗祭齋行

新穀を大神様にお供えし一年の収穫を感謝する新嘗祭が11月23日に執り行われました。午前9時より宮司以下祭員奉仕により大祭式にて責任役員総代、りんどう会役員他の参列のもと斎行され、当宮幼稚園園児らが園内の稲田で田植えや稲刈りをして丹精込めて育てた初穂、JA東京中央杉並など氏子崇敬者の篤志家の方々が献納された穀物や野菜果物などが庭積神饌として大前にお供えされました。



### 第26回杉並花笠祭り

12月10日、師走の風物詩である杉並花笠祭りが開催されました。今回26回目となる杉並花笠祭りは、サミット(株)・サミットコルモ・大宮八幡宮の主催で行われ、表参道では花笠踊りのパレードが練り歩き、山形県の郷土料理である芋煮や御神酒などが振る舞われました。山形産の農作物や特産品の露店が立ち並び、午前10時から午後3時まで約3万人の参拝者で賑わいました。又、この様子は「J:COM」で生放送されておりました。



### 取材、ロケこもごも

8月26日、雑誌「男の隠れ家」誌の境内撮影、取材がありました。「地元の方に聞いた秘密の紅葉スポット特集」という内容で、9月下旬発行の11月号にて紹介されました。

10月27日、Mr.都市伝説関曉夫氏が動画サイト制作のため取材に本社されました。「Mr.都市伝説関曉夫 Presents 心のもやもや解消します」という番組で、境内撮影と鎌田宮司との対談が収録されました。

11月1・2日、TBSテレビ「○○の妻たち」の番組制作のため、芸人ノッチ夫妻が次女の大宮幼稚園を受験する様子が撮影されました。1月以降放送の予定です。

11月29日、テレビ朝日「ドクターX」のドラマの撮影がありました。主演の米倉涼子さん、黒木メイサさん、内田有紀さん、岸部一徳さんが参拝するシーン、安産お守りを受けるシーンなどが撮影され、12月15日の第10話「最終章」で放映されました。

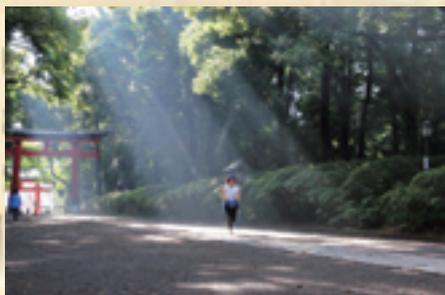
### 熊本地震義捐金

4月14日、熊本を突然襲った大地震は、未曾有の被害をもたらしました。当宮では、直ちに境内に義捐金箱を用意して募りました。10月8日まで集められた義捐金50万円は被害の激しい阿蘇神社に送られました。

### 大宮八幡宮 第3回フォトコンテスト入選作品発表

今回で第3回目となる大宮八幡宮フォトコンテストは、近隣の写真店にもご協力いただき、平成28年7月31日までに23名62点の作品が集まりました。杉本恭子審査委員長はじめ、宮司・審査委員の方々の厳正なる審査のもと、最優秀作品1点、優秀賞1点ほか各賞が選出されました。また、10月2日には表彰式が行われ、当日は受賞者らが集い、杉本審査委員長を代表にまず正式参拝。次いで、大宮八幡宮清涼殿「亀の間」にて表彰式が行われました。各賞が次々に発表され、審査委員長より講評、各作品のポイントや撮影のコツなどが指摘されました。

最優秀賞（最優秀賞）



『後押し』 杉園幸司

審査委員長賞（優秀賞）



『お願い叶うかな』 関根千夜子

金賞



『マジックアワーの八幡宮』 早川幸子

銀賞



『宮入り』 大野貴義

銀賞



『男銀杏の樹の下で』 新井一夫

銅賞



『見守られて』 宮坂幸輝

銅賞



『夏の思い出を』 中村徹哉

銅賞



『七夕飾り・神殿』 濱田文夫

### 第4回フォトコンテスト作品募集中

当宮の自然や行事風景を、プロ・アマ問わず写真愛好家の方々の目で写し撮って、その作品を八幡大神様にご奉納頂きます。平成29年の大宮八幡祭り（秋の大祭）期間中に展示し、ご参拝の皆様楽しんで頂きたく、昨年に引き続きフォトコンテストを開催しております。

応募期間  
平成28年10月1日～  
平成29年7月31日

募集サイズ：2L・4ツ切サイズ

大宮八幡宮に関係した作品であれば、風景・人物・行事等テーマは自由です。但し、各神事での撮影禁止事項をお守り下さい。応募作品はお人につき5点までです。詳細は、社頭やホームページにて要項をご確認下さい。

#### 協力写真店

ホッタカメラ本店（浜田山）  
フォトグラフ三光堂（大宮八幡宮入口）  
カメラハウス本店（久我山）  
ストックワーク（中野）

※入賞作品の著作権は応募者本人に帰属しますが、使用権は主催者に帰属するものとし、展示や当宮の出版物・広報・インターネット等に無償で使用させて頂きます。（※各媒体掲載時には、氏名のみを掲載させて頂きます。）

# 初宮詣芳名

(平成28年7月23日～11月20日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

古馬詩子 今関倫太郎 中野愛琉 伊東源太  
 落合紗良 小塚叶登 菱谷拓幸 大塚元太郎  
 加藤朝乃 千葉晴仁 秋葉晴太 橋本海翔  
 安藤柚希 井上遥 棚橋詩 益川煌平  
 徳増航大 小笠原百合香 窪田晴 松崎泉希  
 佐藤寿音 安井菜々子 中野恩慎 妹尾彰信  
 二木さくら 金子柞月 小野泰祐 藤原夏凜  
 長澤美桜 片岡ゆめ 田中大智 戸高沙蘭  
 中村優吾 尾形知弘 山崎大智 高主湊士  
 加藤穂乃佳 佐々木想 高木湊士 齊藤詩織  
 増本華恵 小林光希 堀内こなつ 柳澤奏太  
 磯貝翔乃 高田健慎 山崎桃子 松井紗良  
 飯塚帆乃 長田千資 江上大地 水原希海  
 金谷美結 浦上瑠璃奈 稲村凖 石野野翔  
 村田望結 眞木美伶 眞木美伶 榎野夏夏  
 山田叶夢 眞木美伶 眞木美伶 齊田生翔  
 久保彩花 樋口司 山本湧介 藤村南奈  
 鶴壮一郎 高木勘太郎 山本湧介 小川結月  
 高村佳那 中菅介 寺内海羽 力丸夏乃葉  
 内田成海 岩切葵由 上倉将紀 森岡咲斗  
 中村悠人 井上希穂 葉山蓮生 来間陽葵  
 高橋倫奈 高橋宏斗 安藤翼 西尾理玖  
 山口尚 山口心陽 齊藤れい 藤木一誓  
 加藤渚 坂口都碧 村地環花 瀧谷友菜  
 望月然 坂田都碧 吉久寧介 井本意人  
 上辻俊輔 太田拓来未 松田健介 生野雅人  
 高橋輝成 中島広瑛 塩崎ゆめ 江良湊人  
 緒方丞ロイド 宇田川玲美加 関谷洋人 山田航己  
 稲垣哲 野原汐莉 岡悠真 鈴木一真  
 高田咲菜 荒木茉莉 仁瓶美美乃 清水慶人  
 金子葵 田中宏昌 栗林文化 鈴木健悟  
 小浪花翔 田島美玖 丹羽晃真 山岡凌佑  
 菊池創太 河原美玖 天野花帆 新井隆良  
 小林依來 中溝菖 酒井かりん 小林天  
 酒井岳 菅谷虹心 菅谷虹心 横田千高  
 石井香帆 北川桐詩 須藤唯斗 鳥井原匠  
 熊谷知花 磯西玄 南雲柚希 星野葵志  
 橋本倫生 千葉桃仁 岡本准 中西佑太 高野結愛  
 井上悠吾 福島櫻子 田原千与 瀧上晴那 渡邊智也  
 勢理客菜 高島琉 八尾波瑠 根本大也 光本さつき

岩田悠佑 山田百合香 井上稜太郎 増田遼太郎  
 波辺朝陽 山田乙歌 寺田季乃 山口名弥  
 加藤匠 末永紗都 高橋美羽 田中凜奈  
 西山直弥 杉原いりい 鈴木綾人 大森深由  
 小野瀬葉琉 横田みずす 鈴木莉緒 石丸なつ  
 廣瀬旺介 中島佑結 鈴木莉緒 杉原旭  
 君嶋陽仁 阿部結夏 高澤はな 村原幸大  
 石川夏希 阪井惺哉 田中結 浅野紗英  
 伴威遠 山多利桜人 森村陸社 下川心寧  
 上別府新 山口杏菜 山崎風人 堀口翔伍  
 小山美帆 廣崎莉湖 宮西優多 諸富海洲  
 金子明人 西山向日葵 佐藤陽向 安齋彩羽  
 藤田智寛 外岡文翔 菅原大智 山崎崇晴  
 山下悠士 富田理功 大石文香 相澤諒  
 多田奏音 西野泰生 辻謙人 室本錬 一瀬瑛心  
 平井奈央 高田心那 早見光羽 翠凌世  
 鈴木はな 市川涼真 市川涼真 張戸瑛太  
 中山大翔 武藤心花 正田麻希 落合佑馬  
 市川結愛 市川大翔 近藤日咲 伊藤千裕  
 栗原昌 島田直樹 貫井優汰 佐藤永健  
 松田直樹 松田海斗 熊谷英斗 西川真生  
 吉原千帆 達川啓弥 星野将也 井開鉄平  
 渡邊夏帆 吉原千帆 長川凜夏 富川愛翔  
 中野真瑠 渡邊夏帆 長川凜夏 湯澤南  
 上田優汰 橋口隼大 高橋真帆 中田望結  
 井坂咲太 矢嶋新 伊藤旭 坂垣葵 松井琴音  
 白鳥遥 今泉静洋 藤井優誠 遠藤千世佳  
 小泉静洋 高井啓輔 殿村葵  
 藤井優誠 遠藤千世佳 殿村葵  
 伊藤旭 宮内花歩 福原天馬 中智也  
 坂垣葵 遠藤千世佳 殿村葵  
 長尾菜生 伊藤ひなた 横田莉奈  
 伊藤ひなた 西村武丸 濱村拓美 山本暁士  
 岩崎佳佑 岩田愛理 池田陽向 清水悠真  
 見上璃樹 濱田蒼大 川島陽  
 福原さつき 佐藤永奈 森一哉 宮本虎和  
 志和菜々子 鈴木瑛土 小川綾音 高見諒 青江樹  
 鈴木瑛土 川野純吾 伊東純吉 坂井雄海 坂庭颯真  
 小窪真央 德田小杜子 吉野陽葵 原田丈 星野真央  
 木元悠貴 井上由彩 宮本千陽 深澤稜生



## 大きくなったよ

昨年の4月に大宮幼稚園に入園して、お母さんと離れて初めての集団生活をスタートさせた年少さん。初めの頃、バスで迎えに行くとお母さんの陰に隠れたり、自宅の方へ走って逃げたり、お母さんに抱っこされて、泣きながら先生たちに抱きかかえられて登園していた子どもたち。それが少しずつ成長して、幼稚園に行ってもちゃんとお家に帰れる事、困った時は先生たちが必ず助けてくれる事、先生方やお友だちどうして沢山お話ししたり、スキンシップを取る事で不安が無くなり、砂場や滑り台、汽車やボール遊びなど、好きな遊びを見つけて楽しく過ごせるようになりました。

でも、幼稚園は楽しく遊ぶばかりではありません。時には先生たちの話をじつと座って静かに聞いたり、毎月朔日と十五日のとても大切な神社参拝では、きちんと立ち、神拝詞を皆で声を合わせて唱えて、二礼二拍手一礼をします。

各学期の始まりと終わりににはご神前で必ず園長先生のお話を静かに聞きます。まだまだ年少さんには難しい事もたくさんありますが、年中さんや年少さんや、一つ一つ経験して覚えていきます。

10月に行った初めての運動会では、大勢のお客様の前で恥ずかしい気持ちをお我慢して「しっぺり張りな！」と言う事を知りました。大好きなお家の方々から、「かつこ良

かったよ！」や「素敵だったね！」など声をかけてもらって、「自分でも出来た！」と思う事が出来、それが自信につながり大きく成長した年少さんでした。

そして次のステップとして、今までは自分の遊びたい遊びをしていったり、「先生と自分」という関係だけだった中、少しずつ友だちと楽しさを共有する気持ちを覚え、会話をしながら遊ぶ楽しさを知りました。

「○○君一緒に遊ぼうよ」と隣に座って？」「お弁当食べよう？」などの声があちらこちらで聞こえてくるようになりました。反面「今日は○○ちゃんも遊ぶからダメ！」や「その遊びはダメ！」、「2人は遊べないの！」などと、言葉の語彙が少なくて、なんでも「ダメ！」と言う言葉になってしまい、お友だちを傷つけてしまう事もあります。

その都度、先生が中にはいって、「2人だけじゃなくても遊べるよね？」や「私はこの遊びがしたいんだけどどうする？」とか、「次は一緒に座ってね！」などと、言葉を足してあげると覚えて真似てくれます。

年少さんという小さな世界でも、友達ちとのつきあい方や、人間関係を学んでいきます。年度末の3月には「大きくなったよパーティー」と言う舞台を控えています。題名のように子どもたちが身体も心も強く大きく大きくなつてもらえるように、日々向き合っていると思います。



教諭 奥村佳代子

- 山下琳央奈 渡邊幸 北畑全悠 関優太郎  
 宮崎蓮 渡邊永 坂井美南 青木海澄  
 栗田桃衣 藤由貴 佐野成美 金子紗希  
 秋元玲奈 伊沢奈津紀 高橋悠人 村上依央  
 岩瀬巧 石原瑛太 福道楓菜 渡邊楓菜  
 寺田太一 今永廉人 山下柊 大野茉莉  
 加藤一 伊藤夕夏 若月梨緒 小野素生  
 菅井杏 片山初樹 鈴木ひまり 小野真采  
 三浦齊真 岸柳蒼一 早瀬慶 安野みのり  
 岩本望史 森海斗 光益理莉 鈴木彩音  
 山田康太 國華奈 表桜 原野斗  
 関吾郎 馬場有佳子 青山希 藤原雷斗  
 金光晴奏 樋口太郎 佐藤真人 藤原円  
 近藤秀哉 後藤こなた 吉井理太郎 下東大悟  
 大橋伊織 岡田悠杜 遠藤碧乃 柴田聡和子  
 辰野旭 飛山菜々子 佐藤奏太 飯塚ちせ  
 和田ゆず 室越樹史朗 青木優人 小林琴子  
 工藤朱夏 島谷陵平 森田彩 新名瑞希  
 安達つゆは 宮澤昇大朗 大内碧彩 五加響帆  
 玉田結人 深日咲紀 瀧野夏帆 橋本優斗  
 中山歩 大槻咲葉 寺本喜一郎 小倉茉莉  
 甲源人 坪内智信 山本那由 山本真愛  
 小野颯太 西尾悠汰 吉澤央晴 前田隆弘  
 古谷奈々 松崎一十花 小川然大 藤田晏志  
 南倫太郎 古川詩緒 高井翔生 石野海志  
 大塚良菜 渡邊花和 伊藤巧真 秋原灯里  
 小林恵美 野澤健志 大伴実乃 永安葉月  
 池田伸 牧野夏太 篠田七慧 根尾美咲  
 鳥居香琉 鈴木杏奈 末吉瑞月 中村健  
 鈴木杏奈 末吉瑞月 高藤悠晴 伊藤楓  
 木島吳希 寺井結乃 小久保歩真 伊藤楓  
 安部結人 須藤雲仁 村田創亮 水田颯  
 横山大起 齋藤陸 志賀大悟 高年礼すず花  
 野村俊樹 小畑遼太郎 西田夏向 田中咲衣  
 平田隼士 塩田祐平 高村優依 波形亮羽  
 出原一樹 山口心夏 小平果歩 高橋風音  
 茅野陽葵 山口心夏 伊藤笙太郎 富安真央  
 赤澤花夏子 谷川智彬 木口凱仁 伊香心音  
 古賀晨航 尾上恵斗 伊藤優汰 小張智  
 佐藤丞 岡田結菜 熊澤絢斗 佐川陽菜乃  
 片桐優介 鈴木夏澄 三島優希人 山崎一哉  
 武藤大地 加茂海 小川華 越山湊仁  
 綿貫航己 塚本結音 高橋優太 山中優奈  
 矢野碧海 西野生真 鎌谷健吾 竹花美織  
 森田千遥 岩田翔太 鎌谷省吾 大西希子  
 小泉仁彩奈 大中嘉人 青木昂 藤田佳那  
 山口さくら 室田大智 八木浩一
- 関田瑞己 井倉杏 林侑里香 長谷川類 三浦千佳  
 吉井寛 小杉利子 中谷美晴 久保志織 倉谷縁  
 迫宗玄 谷朋哉 村松佑佳 今林瑛斗 平川菓子  
 谷朋哉 村松佑佳 今林瑛斗 平川菓子 保田美咲  
 横川幸太 鳥居咲和 石田成 朝長香帆 和田菜々夏  
 中村絢香 中西剛大 藤田鈴 山田禮利 山田悠子  
 藤田鈴 酒井愛梨 岡田実弥 久米陽香梨 春尾圭祐  
 黒本実弥 岡田実弥 久米陽香梨 大高有希子 大沢采  
 鈴木晴真 藤井希空 山口花実 新本怜生 関根千  
 藤井希空 山口花実 新本怜生 関根千 関根千  
 吉谷早織 吉谷早織 山口花実 新本怜生 関根千  
 平林郁 平林郁 星野瞬 炭谷美鈴 谷口遼斗  
 佐藤輝太 門阪結花 高井翔生 山口宗丸 関根千  
 宮崎陽生 千田雅花 神谷拓海 古瀬方皓 山崎大知  
 山本真二 高橋利生 若尾枝里沙 谷口林太郎 鶴岡蒼太  
 松川柚希 山本真二 高橋利生 若尾枝里沙 谷口林太郎  
 山本真二 高橋利生 若尾枝里沙 谷口林太郎 鶴岡蒼太  
 高橋利生 若尾枝里沙 谷口林太郎 鶴岡蒼太 関根千  
 渡邊耀士 谷口林太郎 鶴岡蒼太 関根千 関根千  
 山下諒真 山下諒真 山下諒真 山下諒真 山下諒真  
 小川穂 小川穂 小川穂 小川穂 小川穂  
 青木大翔 青木大翔 青木大翔 青木大翔 青木大翔  
 田中杏奈 田中杏奈 田中杏奈 田中杏奈 田中杏奈  
 新井朝陽 新井朝陽 新井朝陽 新井朝陽 新井朝陽  
 中山みちる 中山みちる 中山みちる 中山みちる 中山みちる  
 坂本啓 坂本啓 坂本啓 坂本啓 坂本啓  
 長谷川零士 長谷川零士 長谷川零士 長谷川零士 長谷川零士  
 栗田紗々菜 栗田紗々菜 栗田紗々菜 栗田紗々菜 栗田紗々菜  
 江川文太 江川文太 江川文太 江川文太 江川文太  
 佐藤久真 佐藤久真 佐藤久真 佐藤久真 佐藤久真  
 池田紬 池田紬 池田紬 池田紬 池田紬  
 山崎一哉 山崎一哉 山崎一哉 山崎一哉 山崎一哉  
 三島優希人 三島優希人 三島優希人 三島優希人 三島優希人  
 鈴木遥 鈴木遥 鈴木遥 鈴木遥 鈴木遥  
 永山裕 永山裕 永山裕 永山裕 永山裕  
 石井楓栞 石井楓栞 石井楓栞 石井楓栞 石井楓栞  
 渡邊由芽 渡邊由芽 渡邊由芽 渡邊由芽 渡邊由芽  
 坂井環子 坂井環子 坂井環子 坂井環子 坂井環子  
 吉川哲平 吉川哲平 吉川哲平 吉川哲平 吉川哲平  
 土居蒼空 土居蒼空 土居蒼空 土居蒼空 土居蒼空  
 川嶋柚葉 川嶋柚葉 川嶋柚葉 川嶋柚葉 川嶋柚葉
- 高橋佳大 池上廉 松永紗英 末平旭  
 佐藤結佳 尾野大翔 金子葵 大島由惟  
 黒田瑞葵 如瀬美遥 金子楓 長谷川隼人  
 比留間たいが 清水楓支 服部百華 尾上莉子  
 岡田みなみ 宮川晴 後藤奏太 秋穂玲奈  
 永田真季 日根野葵 小野月日 中森柚月  
 小山直葉 明石陽陽 丸山こ 鎌田來似  
 塩田弥世 高橋汐奏 中野衣緒 岡田理央  
 西尾暢道 松田奈々未 田畑純歩 鈴木楓  
 鶴澤正志 西片悠真 猪熊曜 渡邊彩花  
 植村友紀 服部汐里 服部暁太郎 大川原慧  
 植村友紀 服部汐里 服部暁太郎 大川原慧 宇田川双葉  
 十文字碧 大山創士 宮本心葉 進藤泰知  
 オズビーノ海人 眞柳爽人 岩崎善佑 草薺恵人  
 堀内丈太郎 眞柳爽人 岩崎善佑 又吉秋大  
 井亀圭唯 鴨志田歩生 矢島佑奈 小川倅生  
 城澤天音 西島花奏 羽入田惺那 川瀧遥真  
 新谷頼人 中村紗羅 福本宗平 塚本凜子  
 関根悠羽 川名珠都 郡司晃成  
 天野健成 大高真絢 鈴木一馬  
 青木巫吳 齊藤実織 柿崎晃 北川颯人  
 徳山嶺 徳山嶺 徳山嶺 徳山嶺 徳山嶺  
 岩崎由 白井都葵 秋山大知

結婚式挙式者芳名 (敬称略)

平成28年8月1日~12月10日

- 青木拓也・結 中野豊・薫  
 上倉享・美幸 立石大二・歌奈子  
 大賀道利・歩美 藤田佳範・久子  
 篁大輔・智美 板倉一郎・真美  
 大塚昂・由香 松田千晶・愉香里  
 吉岡幸一・菜子 廣瀬晴之・美晴

緑豊かな都心の社で  
 絆深める和婚式

成人式 卒業式  
 衣装・美容着付・写真・初宮饗宴(ご会食)など承ります。

清潔殿 03(3312)7515

成の日早見表 (平成29年1月~5月)

5月	4月	3月	2月	1月
11日(木)	5日(水)	12日(日)	4日(土)	11日(水)
23日(火)	17日(月)	24日(金)	16日(木)	23日(月)
	29日(土)		28日(火)	

は大安の日です

成の日は 子育て八幡さまの当宮で 母子共に安産祈願祭を!

※成の日以外でも随時お受けしております

ご祈願の方には安産腹帯(大宮八幡息長帯)と共に、(その緒で結ばれたお母様とお子様)が健康に「出産の時を迎えられますように」との願いが込められた「母子緒」と「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。

母子緒

ひのとり  
平成29年丁酉歳 迎春



すがすが  
新年にはご祈願をお受けになり、清々しい1年に致しましょう

平成29丁酉年 元旦零時 神能「翁」・新春厄除開運初大祈願祭（一番祈祷）斎行



元旦零時、宮司による初太鼓



おきながすず  
息長鈴による鈴振り神事



御社殿前

清々しい初日の出を迎え、多くの参詣者で賑わうご社頭



元旦午前8時、歳旦祭 宮司以下参進



立正佼成会 庭野会長他役員御一行



幸福撫でがえる石にも続々と



授与所にて新年の御守を受ける参拝者



小笠原流新春除魔神事 ひきめ 墓目の儀



表参道の賑わい

**大 宮 第107号**  
**平成29年 新春号**  
平成29年1月1日発行  
**大宮八幡宮社務所**

〒168-8570  
東京都杉並区大宮2-3-1  
電話 (3311)0105 FAX(3318)6100  
Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp



新春の  
代表的な授与品  
厄除守